

〔A類社会選修, A類環境教育選修, B類社会専攻 対象〕

倫理 解答例

令和4年度

一般選抜前期

正解・解答例

問1 (d)

問2 ヒュームによれば、因果性とは自然界における事物の客観的な原因や原理ではなく、人間が繰り返し同じ事象や継起的現象を観察・体験した際に生じる心の習慣が作り出す、主観的な信念や思い込みに過ぎない。(96字)

問3 スピノザは、神が自然を創造したのではなく、すべての自然そのものを神の現れとして捉えるという汎神論的な自然観をとった(神即自然)。そして、全自然を「永遠の相の下に」捉え、必然性の下でとらえようとした。(99字)

問4 通常、私たちは、目の前の対象(物自体)をありのままに認識していると考えている。しかし、カントによれば、私たちが何かを認識する際には、感覚を通じて得た素材が、悟性によるアプリアリな概念や形式によって構成されるのであり、事物の客観的認識は、人間の主観(心)の働きに従って構成されることで成立する。つまり、認識が対象に従うのではなく、対象が認識に従うのである。これを、「コペルニクスの転回」と呼ぶ。(196字)

問5 (a)

〔A類社会選修, A類環境教育選修, B類社会専攻 対象〕

倫理 解答例

令和4年度

一般選抜前期

正解・解答例

問1 明六社は、明治6（1873）年に森有礼の呼びかけで結成され、西周、津田真道のほか、加藤弘之、福沢諭吉、中村正直、西村茂樹らが参加した。封建的な一夫多妻を批判して男女平等の考えに基づく一夫一婦制を唱えた森の「妻妾論」に代表されるように、機関誌『明六雑誌』を通じて西洋近代の思想や知識が紹介された。（145字）

問2 ミルは、快樂を量的に計算できるとするベンサムの考え方を批判し、快樂に質的な違いがあることを認め、人間として、質の低い感覚的快樂で満足するのではなく、質の高い精神的快樂を求めるべきだと説いた。（94字）

問3 理気二元論に立つ朱熹によると、気が万物を構成する物質的要素であるとするのに対し、理は万物の一切を貫き万物に宿り万物を成り立たせる原理であり、先天的に賦与される人間の本質である性も理であると捉えた。（98字）

問4 (d)

問5 1891年、キリスト教徒である内村鑑三が、勤務先の第一高等中学校における教育勅語の奉読式で、教育勅語の天皇の署名に対して深く礼をしなかったことが不敬であるとされて退職に追い込まれことが社会問題化した。（98字）